

ポラリスを仰ぐ北の大地から

危機感

余市医師会 会長 小嶋 研一

6月18日の臨時時代議員会の代表質問で中央ブロック上埜博史先生より「物価高騰等に伴う来年度診療報酬改定的大幅引き上げについて」(要望)の質問がありました。

日医松本会長と岸田総理の直接会談で物価高騰、医療従事者の賃上げに対応できる財政支援を要請し、来年度の診療報酬改定時に必要な財源確保を求めたとのことでした。

北海道は冬季間の暖房費をはじめ光熱費にかかる比重が非常に大きいと思います。今後の電気代値上げ、燃料費の値上げは全ての業種も負担となりますが、多くの業種は価格に転嫁することが可能であります。しかし、医療機関の収入は公定価格のため転嫁はできません。今後の医療経営に危機感を持つのは私だけではないと思います。上埜先生も現状のままでは地域の医療経営が困難な状態になる危機感から代表質問をなさったと思います。道医師会の執行部も全力を挙げて来年の診療報酬改定に望むとのことでした。しかし道医師会、日本医師会の執行部だけにこの問題を任せるだけではインパクトが弱い気がいたします。医師会のみならず歯科医師会、薬剤師会など、その他医療従事者の各団体には今まで以上に危機感を持って診療報酬引き上げについて要望をしてほしいと強く思います。そのためには、医療従事者団体の横のつながりを強固なものとして政権に働きかけることが重要だと思います。数か月後には来年度の診療報酬、介護報酬が決まります。今のままでは医療を含む社会保障は削減され防衛費、子育て手当増額に充てる可能性が高いと思います。医療従事者各団体が一丸となって地域医療崩壊を招く診療報酬改悪だけは危機感を持って阻止しなくてはならないと思います。

第165回臨時時代議員会で代表質問をしていただいた上埜博史先生には心より感謝いたします。

コロナの5類移行、ふってわいた医者の不養生

室蘭市医師会 会長 野尻 秀一

新型コロナウイルス感染症が「2類相当」から「5類」に引き下げられてから2か月がたちます。新規感染者は全国で徐々に増加傾向にあり、特に沖縄では定点把握(6/19~6/25) 39.48と医療逼迫傾向にあります。

世の中は3月13日からマスクの着用も個人の意思に任せられ、感染は終息したかの様相です。しかし医療機関ではマスク着用が望ましいということでまだまだ落ち着きません。発熱者も依然として来院されています。このような中、そろそろ医療機関としても職員での懇親会等の希望も挙がっています。しかし万が一クラスターの発生等を考えるとなかなか踏み切れないのが現状です。まして医師会全体の懇親会等についてはまだまだ先の話のようです。会員の先生方々の地域ではいかがでしょうか。

さてコロナも5類へ移行ということで、3年間の運動不足を振り返って、そろそろ何かしようとはまずは散歩の強化から。約20年ダイビングをしていますので、下半身の筋力アップを目指していたところ、突然の起座呼吸。慌てて自院で胸部写真を撮ったところ、心肥大を認め、出身病院受診で「心不全、大動脈弁閉鎖不全症」。最近テレビコマーシャルで流れている「心臓弁膜症」まさに青天の霹靂です。消化器内科のため血液検査、胸腹部CT、上部及び下部消化管検査は施行していましたが、心音聴取はしていませんでした。「医者の不養生」です。皆さんも検診は必ず受け第三者の先生に診断していただきましょう。

今後は心を入れ替えて主治医の先生指導の下、一患者として「規則正しい生活？」をしていきたいと思っています。

